

令和5年度総務委員会行政視察報告書

千葉市議会総務委員会委員長 前田 健一郎

【視察日程】 令和5年10月24日（火）～10月26日（木）

【視察委員】 委員長 前田 健一郎
副委員長 三井 美和香
委員 青山 雅紀、山崎 真彦、石川 弘、
阿部 智、中島 賢治、三瓶 輝枝、
中村 公江、野本 信正
随員 木下 哲央、三部 雅人

【視察地及び調査事項】

- 1 宇部市議会（10月24日）
 - （1）宇部市施行100周年記念事業について
 - （2）宇部市デジタル市役所推進基本計画について
- 2 筑紫野市議会（10月25日）
 - （1）市制施行50周年記念事業について
- 3 春日市議会（10月26日）
 - （1）市制50周年記念事業について
 - （2）春日新50年プランによる次の50年の都市づくりについて

【視察報告】

1 宇部市議会

調査目的	<p>令和3年11月1日に市制施行100周年を迎えた宇部市の記念事業を調査し、本市の来るべき開府900年事業についての参考とする。</p> <p>また、2019年から2022年までを計画期間とする、宇部市デジタル市役所推進基本計画を調査し、本市における行政のデジタル化についての参考とする。</p>
視察概要	<p>1 調査項目</p> <p>(1) 宇部市施行100周年記念事業について</p> <p>(2) 宇部市デジタル市役所推進基本計画について</p> <p>2 説明者</p> <p>(1) 総合政策部連携共創推進課 課長 ほか</p> <p>(2) 総務部デジタル推進課 副課長 ほか</p>  <p>視察の様子</p> <p>3 主な質疑（□：質疑、■：答弁）</p> <p>□ 市制施行100周年に当たり、73の記念事業を実施したとのことであるが、すべての事業を所管課で把握していたのか。</p> <p>■ 把握はしていたが、事業の実施はそれぞれの主体で行っていた。</p> <p>□ 記念事業の中で、市民から一番反響のあったイベントは何か。</p> <p>■ 感覚としては、自衛隊の祝賀飛行ではないかと思う。100周年を知らなかった市民にも訴求できたのではないかと考えている。</p>

	<p>□ 記念事業の4つの基本方針に対する評価について説明いただいたが、この評価は市民アンケートなどを行った結果なのか。</p> <p>■ 実施者や協力者、参加者に対して行ったアンケートの結果を集計した。</p> <p>□ 市民プロジェクトへの参加者は何人ぐらいいたのか。</p> <p>■ プロジェクトの実施者や協力者として主体的に関わってくださった方は2,000人以上、市民プロジェクトが実施したイベントへの参加者は計12,000人以上だった。</p> <p>□ 市民プロジェクトの各種イベントについて、市が予算をつける、つけないの区別はどのように判断したのか。</p> <p>■ 各担当部署が個別に必要性を判断したが、基本的にはお金は出さないスタンスで臨んだ。</p> <p>□ 100周年記念で考案したお菓子は今後も継続して販売するのか。また、100周年を契機に立ち上げたイベントは今後も継続開催していくのか。</p> <p>■ お菓子もイベントも、基本的には販売、実施を継続している。ただ、お菓子についてはパッケージから100周年のロゴを外したり、イベントについては規模を縮小したものもある。</p> <p>□ のぼり旗の製作数は。</p> <p>■ 当初は400本作ったが、反響が大きく、すぐに足りなくなって追加生産した。最終的には2,000本作り、配り切った。</p> <p>□ 市民参加カウントダウン写真の掲載者365人は抽選か先着順か。</p> <p>■ 先着順で行ったが、参加者が少し足りない心配が出てきたので、急遽、地元のプロバスケットボールチームに協力をお願いした。結果、ちょうど埋まった感じだった。</p> <p>□ 人口減少の時代において、子どもたちに郷土愛を持ってもらうことは重要な取組で、特に特別給食は、長く記憶に残るであろう素晴らしい取組と考える。子どもたちの反響はいかがだったか。</p> <p>■ 給食と花火が心に残ったとの声が多かった。市としても、子どもたちに宇部市で楽しい思い出をつくってほしいと考えていたので、</p>
--	---

	<p>実施した甲斐があったと喜んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> アニメ「エヴァンゲリオン」とコラボしたまちづくりを行っているが、始めた経緯と効果はいかほどか。</p> <p>■ 「エヴァンゲリオン」の監督が宇部市の出身ということで、市長のトップセールスでコラボを行うこととなったようだ。効果については、数字としては把握していないが、確実にあると感じている。槍のオブジェがある「ときわ公園」や映画に登場したJR宇部新川駅は、ファンの間で聖地になっている。</p> <p><input type="checkbox"/> デジタル市役所推進基本計画について、申請書類がデジタル化され、市民は書類に記入しなくてもよいとのことだが、総合窓口で扱っているもの以外の申請についてはいかがか。</p> <p>■ 総合窓口は、記載台を廃止しており、書かないというのが基本だが、他の窓口では書いてもらうこともある。ただ、すべての手続きを書かずに済ませられることを目標にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 申請書類デジタル化にかかる予算はどのくらいか。</p> <p>■ 単体では出していないが、結構かかっていると思う。</p> <p><input type="checkbox"/> 千葉市では1,000万円の予算だが、そのくらいか。</p> <p>■ 県と周辺市町との共同運用のため、そこまではかかっていないと思われる。</p> <p><input type="checkbox"/> デジタルデバйд対策についてはどのような取組をしているのか。</p> <p>■ 市民が参加しやすいように、商業施設などでスマートフォン講座を行っている。毎回定員に達するほど盛況である。</p>
委員の所感	<p><input type="checkbox"/> 宇部市は100周年記念式典の当日にメモリアル花火や祝賀飛行、記念給食などでお祭りのような雰囲気をつくったことで盛り上がったようなので、本市もそのような特別な1日を設定した方がよいと感じた。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍の中でも各種イベントを行い、市民と一緒に100周年を祝うことができたことは大変参考になった。</p> <p><input type="checkbox"/> 祝賀飛行や花火大会などの、大勢の市民が参加できるイベントは、大変よい取組だと感じた。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> □ 記念事業の延べ参加人数が 16 万人以上とのことで、多くの市民が参加・協力されたことに敬意を表する。 □ 「実行委員会」を置かずに柔軟かつスピーディーに対応されたと同じ、大いに参考になった。 □ 自治体の周年事業は効果を出すのが非常に難しく、よく内容を練らなければならないことを実感した。とはいえ、人のつながりが希薄化した現代にこそ周年事業は必要であると考えことから、本市としても、他の自治体にも学びながら、改善しながら進めてほしいと願う。 □ 市民から写真やメッセージを募集する取組は参考になった。 □ 周年事業は大きなお金をかけなくても取り組めることもあると学んだ。 □ 宇部市は人口が本市の 6 分の 1 以下にもかかわらず、先進的なデジタル施策を推進していたことに驚いた。本市も千葉県や他市とのシェアを行うなどしてコストを下げながらデジタル化を推進していく必要があると感じた。 □ 行政のデジタル化の実現のためには、明確な目標や戦略を設定するとともに、人材の確保・育成が重要であると感じた。 □ 行政のデジタル化の成否は職員の意識と推進への熱意であると改めて感じた。 □ デジタル化の推進に際しては、特に高齢者に向けたデジタルデバイド対策が非常に重要になると感じた。
--	---

2 筑紫野市議会

調査目的	令和4年4月1日に市制施行50年を迎えた筑紫野市の記念事業を調査し、本市の来るべき開府900年事業についての参考とする。
視察概要	<p>1 調査項目 市制施行50周年記念事業について</p> <p>2 説明者 企画政策部企画政策課 課長 ほか</p>  <p>視察の様子</p> <p>3 主な質疑（□：質疑、■：答弁）</p> <p>□ 市制50周年記念として、移住促進に関する動画を制作したとのことであるが、制作費および広告費はどのくらいか。また、その効果は。</p> <p>■ 制作費が100万円、広告費（エリアを限定してのYouTubeでの広告）が20万円である。直接的な効果は不明であるが、市の人口の社会増が続いていることから、一定の効果はあったと考えている。</p> <p>□ 動画での広告を2週間に限定した理由は。</p> <p>■ 予算上の都合による。</p> <p>□ 二日市温泉に設置した絵は現在も見ることができるのか。</p> <p>■ アクリル板のようなものに描いたため、耐久性の都合で、令和5年3月をもって展示は終了した。</p>

	<p>□ 市制50周年の、「これまでも、これからも、このまちと。」というキャッチフレーズは大変すばらしいと感じたが、今後も使用する予定はあるのか。</p> <p>■ 「これまでも、これからも」の起点を50周年としているため、今後の使用予定はない。</p> <p>□ 50周年を機に始めたイベント、特にロードレースや子ども向けのイベントは今後も継続して実施する予定はあるのか。</p> <p>■ ロードレースについては、ゲストランナーの招待はしないが、今年度も開催予定である。子ども向けのイベントも基本的には継続し、拡充できるものは拡充して行いたいと考えている。</p> <p>□ 記念事業として企画したものの、実施できなかった事業はあるか。</p> <p>■ 構想段階で断念したものは結構あった。相手方（学校など）の都合により断念したことが多かった。</p> <p>□ 50周年記念フォトコンテストの入選作はどれもすばらしい。この写真を海外を含めて発信すれば、来訪者の増加につながるのではないか。</p> <p>■ 入選作を今後の市の広報に使用する許諾は得ているので、活用していきたい。海外からの観光客については、太宰府天満宮までは来てただけだが、そこから先の回遊性を高める取組を検討していきたい。</p> <p>□ フォトコンテストに多くの市民が参加できるようにするため、何か工夫はしたのか。</p> <p>■ インスタグラムからも写真を応募できるようにして、ハードルを下げた。</p> <p>□ 50周年冠事業として、「はたちのつどい」を開催したとのことであるが、これはいわゆる成人式か。</p> <p>■ そのとおり、いわゆる成人式を、50周年ということで少し拡充して開催したものである。</p> <p>□ 市制50周年ののぼり旗やチラシ、ポスターはどのくらい作成したのか。</p> <p>■ のぼり旗は200～300本を作成し、主に公共施設に掲示した。ポス</p>
--	--

	<p>ター、チラシは各イベントの告知も兼ねて作成したが、全体の数は把握していない。</p>
<p>委員の所感</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 筑紫野市の周年事業は、市民の皆様のアイデンティティーの再構築と市民意識の醸成を常に気にしながら進めていったとのことで、この点は非常に重要であると感じた。 □ 多くの事業を市民参加で取り組み、盛り上げているところが参考になった。 □ 航空写真や記念給食、タイムカプセルなど、市民、特に子どもが参加し、楽しめる企画を開催することが必要だと感じた。 □ 記念動画や移住促進動画の制作、配信に関し、対象のターゲットを明確に設定し、配信地域ごとの視聴回数やホームページへの誘導件数等を数字で分析されているのは、すばらしいと感じた。 □ フォトコンテストは、市の魅力を市民にも市外にも発信できるもので、とてもよい取組だと感じた。 □ コロナ禍の中での記念事業となり、急な企画の変更、中止など苦労があった分、市民や市役所の結束が強くなり、結果、成功に導いていけたと伺って、感銘を受けた。 □ コロナ禍で人と人との絆が希薄となっていく中で、周年事業は人の心をつなげるきっかけとなったとのことで、大いに勇気づけられた。

3 春日市議会

調査目的	<p>令和4年4月1日に市制施行50周年を迎えた春日市の記念事業を調査し、本市の来るべき開府900年事業についての参考とする。</p> <p>また、市制施行50周年を機に策定された、「春日新50年プラン」によるまちづくりについて調査し、本市で昨年策定された基本計画による各種施策の推進についての参考とする。</p>
視察概要	<p>1 調査項目</p> <p>(1) 市制50周年記念事業について</p> <p>(2) 春日新50年プランによる次の50年の都市づくりについて</p> <p>2 説明者</p> <p>経営企画部経営企画課長 ほか</p>  <p>視察の様子</p> <p>3 主な質疑（□：質疑、■：答弁）</p> <p>□ 市制50周年の記念イベントは、どのように企画し、実施したのか。</p> <p>■ まずは所管である経営企画課が大枠をつくり、詳細な企画はプロジェクトチームが行った。実施については、市主催事業は委託業者が行い、市民実行委員会事業は実行委員会や市民が行った。</p> <p>□ 庁内プロジェクトチームの人はどのように行ったのか。</p> <p>■ 各部から推薦していただいた上で、所管である経営企画課にて調整、決定した。</p>

	<p>□ プロジェクトチームのメンバーは、周年事業を専任で行っていたのか。</p> <p>■ 本来業務を行いながら、周年事業にも従事してもらった。</p> <p>□ 市制50周年のクロージングセレモニーとはどのようなことを行ったのか。</p> <p>■ 市内の公園で報告会を行うとともに、市民から募った、20年後の自分に宛てた手紙を入れたタイムカプセルを埋めた。また、中学生にスピーチをしてもらった。</p> <p>□ 民間企業からの協力の状況は。</p> <p>■ 春日市には大きな企業がないため、町の畳屋さん、蕎麦屋さん、お菓子屋さんなどが協力してくれた。ほかにも郵便局やコンビニ店からの協力も得た。</p> <p>□ 50周年を機にリメイクされた「春日賛歌」の今後の展開は。</p> <p>■ 小中学校の授業（音楽やダンス）で使用してもらったり、地域の盆踊りで使用してもらうなどを想定し、お願いをしている。</p> <p>□ 春日新50年プランの中で、弥生時代の遺跡である須玖岡本遺跡について、周辺整備を行うとの説明であるが、遺跡は現在、どのような状況にあるのか、また、どのように整備しようとしているのか。</p> <p>■ 奴国の丘歴史公園として、資料館や芝生広場が整備されているが、王や王族の墓が住宅地の中にあり、用地買収は進めているものの、空き地と住宅地が混在している状況である。今後は空き地を整備した上で案内板を設置するなどして、回遊性を高めるよう整備を進めていく予定。</p> <p>□ 須玖岡本遺跡の価値をどう捉えているのか。</p> <p>■ 弥生時代の中期～後期に栄えた奴国の中枢が当市にあったと考えられている。PRがまだうまくいかずにあまり知られていないが、今後も周知や整備が必要だと考えている。</p>
--	--

<p>委員の所感</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 春日市の周年事業の構成は、市主催事業、冠事業、市民実行委員会実施事業の3つであるが、予算配分は市民実行委員会が半分以上を占めていた。この配分には学ぶところが多かった。 □ 市主催事業に関しては、3年前の予算要望段階ですべての事業を一括して民間企業に委託したことが管理面、コスト面で良かったとのことなので、本市も来年度には具体的なところまで準備を行う必要があると感じた。 □ 冠事業については、主の行事よりも周年事業の冠やキャッチフレーズの方が大きく出ていて驚いた。このぐらいの方が周年事業の認知度が上がるものと思われ、検討すべきと感じた。 □ 担当者の説明がとてもわかりやすく、市民を尊重した上で事業を進めていることが理解できた。 □ 市制50周年を機に、弥生時代の遺跡である須玖岡本遺跡周辺の整備を行っていた。本市でも、直接の関連性は薄いものの、開府900年記念事業に加曾利貝塚関連のものを取り入れることを提案したい。 □ 周年事業とまちづくりの計画を同時に行うことで、市民にもわかりやすく説明ができ、アピールにもなると感じた。 □ 市内をいくつかのエリアに分けて具体的な都市づくりのビジョンを描いており、すばらしいと感じた。
---------------------	--